

株式会社シマヤ

設立時は「嶋屋商会」、江戸時代は屋号として「嶋屋」

「信用を重んじ確実に旨とし、浮利を追わず」
「ものは高く買って安く売れ」

化学工業薬品、試薬、理化学機器、肥料、土壌改良剤、造園芸資材、工場の緑地管理資材の販売である。その需要分野は製造業における研究開発から品質管理、製造工程の水処理薬品、製造工程で生じた廃酸廃アルカリ等の産業廃棄物の処理、研究現場で生じた廃試薬の処理等ものづくりの所謂ゆりかごから墓場までを網羅している。

商号	株式会社シマヤ
本社	〒672-8075 姫路市飾磨区思案橋60番地
創業年	1617年(元和3年)
設立年	1948年(昭和23年)
資本金	1,000万円
従業員数	20名
事業内容	化学品卸売業



嶋屋の干鰯取引先を示す「干鰯歩銀書出通」
文久三年(1863年)



飾万津の嶋屋の干鰯倉庫



多木肥料初荷風景

生い立ちと歩み

神戸市立博物館所蔵の「飾磨魚問屋文書」によると、江戸元和年間本多美濃守忠政御代より魚問屋仕候の記載があり、高島家の事業の歴史は400年を超えることになる。江戸末期には、当地でも木綿生産が盛んになり、弘化3年に河合寸翁の姫路綿奨励策の一環として港を浚渫、湛保と称する船溜が築造され、飾万津が北前船の主要寄港地となった。「嶋屋」は米作、綿畑用の有機肥料としての干鰯の商売を飛躍的に伸ばした。その後銀行の設立、資本家への展開、農地経営に主をおいていた時に農地改革が経営の転換期となる。戦後の食糧増産のための肥料販売、加えて播磨工業地帯の発展に伴い、化学工業薬品、試薬の販売を伸ばしてきた。

第二の創業、農業分野から工業分野へと進展

農地改革時の事業転換について、姻戚関係にあった多木化学(旧多木製肥所)が当地域の特約店としてサポートしてもらったことが大きかった。その後、試薬の関東化学の特約店として営業展開を行ったが、試薬事業は需要の裾野は広いものの商売単位は細かく、コスト吸収に悩んだ時期が長かった。それでも地道な営業活動により、兵庫県特に播磨地区に生産拠点があるほとんどの製造業との取引口座を持ち、化学関係での、ものづくりのトータルサポートができるに至っている。先代社長健八が借金嫌いであったことで、バブル崩壊を乗り切り、大型倒産においても仕入先のサポートを得た。リーマンショック等の激変も月次決算で最低でも赤字を出さない方策を考えて乗り越えた。

将来の展望と課題

eコマースがますます盛んになる中での卸売業は需要家の購買方針の変化を見極めると同時にどういったサポートが必要なのかを常に考えていかなければならない。弊社の扱いは薬品という毒劇物、危険物があり、中でも液体物が多く、法規上eコマースにそぐわないものが多い。そういった扱い難い商品の物流センターを担うことも選択肢であり、eコマースの対応と共に考えていく案件でもある。製造業は競争力強化のための品質向上が永遠のテーマであると同時に、レベルの高い人材確保のための職場の環境改善も併せて考えていかざるを得ない現状にある。わが社も時代に見合う新社屋建設をひとつの目標として、日本の製造業が世界に向かって競争力をさらに高めるような貢献分野を探り続けていきたい。



一般試薬商品



2020年社員の集い